

「この街」のために。「あなた」のために。

2017年8月号（月刊）発行：社会医療法人 壮幸会 行田総合病院



## 脳神経外科の血管内治療

Close-up 脳神経外科

Close-up 脳神経外科病棟看護師

Column&News&Topics

8月

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL : 048-552-1111





# 血管内治療 を開始しました。

脳神経外科／医師・本間秀樹

## はじめに

脳疾患に対する血管内治療をご存知ですか？  
脳神経外科の治療の方法において、昔から行っている外科的手術が主流ではありますが、最近になって急激に発展してきた治療法にこの血管内治療があり、外科的手術に対して血管内手術とも呼ばれ、その治療件数も大幅に伸びてきました。

## 血管内治療とは？

脳血管撮影検査を行うカテーテル（血管の中に挿入する細い管）を進化させた特殊なカテーテルを使用することで、手術のように多彩な操作を行い、治療することを血管内治療といいます。脳血管撮影の技術はCTやMRIなどより遥か昔からあり、長く診断に使用されてきました。但しこの血管の中を通すカテーテルに、更に細工するという難度の高い技術は、最近になってようやく可能となったのです。

それでは具体的にどんなことができるか考えてみましょう。狭くなった血管を風船で押し広げたり、筒状の金属のメッシュ（ステント）を留置して狭くなった血管を長期的に広げたり、反対に詰り物で血管の流れを止めてしまったり、同様に動脈瘤を内側から詰めたりできるのです。更に最近では血管内に詰まった血栓をステント型の道具で絡め取って再開通させるなんてこともできるようになりました。こうしたことが可能になるまでに

は、長い年月が必要でした。経験の蓄積により道具が進化し、安全性が高まったことで、ようやく一般的な治療法になったのです。この血管内治療はまだ始まって30年足らずの浅い歴史ですが、この間に様々な試行錯誤があり、最近の10年で花開いてきたと言えます。

## 治療の選択肢が広がる

当院でもこうした治療を始められる準備ができました。とはいえ、最初から全部ができるのではなく、基本的な治療から徐々に拡大してゆくように考えています。

まずは、内頸動脈狭窄症に対して行う頸動脈ステント、通称CAS（キャス）と呼ばれる治療を開始しました。食事が欧米化した日本においても内頸動脈狭窄症は増加しており、以前から外科的に頸部を切開して行う内膜剥離術を行っていました。

この手術は現在も行われており、当院でも行っています。古くからあるスタンダードな手術ですが、この手術が困難である条件、例えば重大な心疾患を合併して麻酔が危険、狭窄の位置が高く手術が難しい、反対側にも狭窄があって血流遮断が危険などの場合に血管内治療を検討します。但し、血管内治療では頸部を切開することは無いので、美容上の理由で患者さまやご家族がご希望・選択される場合もあります。どちらにも利点・欠点がありますが、治療成績としての優劣の差は殆ど無くなってきています。

## 血管内治療の今後

当院でも血管内治療が選択できるようになったことはとても意義深いことです。これまで血管内治療を行う場合には、他の医療機関にお願いしていましたが、当院で完結できる基盤が築けたことになりました。もちろん、まだ血管内治療の一部を始めたに過ぎませんが、これからできることは段階的に増やしていけると考えています。より多くの患者さまに当院で治療を受けていただける体制作りがまた一歩進められました。

血管内治療を行うには、治療の資格と経験を持った専門医師の存在が必要です。東京都立墨東病院より脳神経外科の専門医師であり、血管内治療の専門医師でもある花川先生をお招きし、私を含め2名の当院常勤医師が指導を受けております。その他、看護師・放射線技師・臨床工学技士など10人程がチームとなって治療に携わります。また、内頸動脈狭窄症は心臓疾患も合併することが知られているため、当院では循環器内科医師にもダッグを組んでいただき、術前の検査、術中・術後の管理に渡って万全の体制で治療に取り組んでいます。

今後の目標は、脳梗塞に対する血栓回収療法ができる体制にまで持っていくことです。まだしばらく時間を必要としますが、着実に近づくであろうと考えています。更に動脈瘤のコイル塞栓術や脳腫瘍・血管奇形等の術前の栄養血管塞栓術等に関しては、次のステップとなるでしょう。一歩ずつ確実に進めて行きたいと決意しています。





## 笑顔を交し合える 病棟です。

行田総合病院  
脳神経外科病棟 看護副師長  
木村達美  
2000 年入職



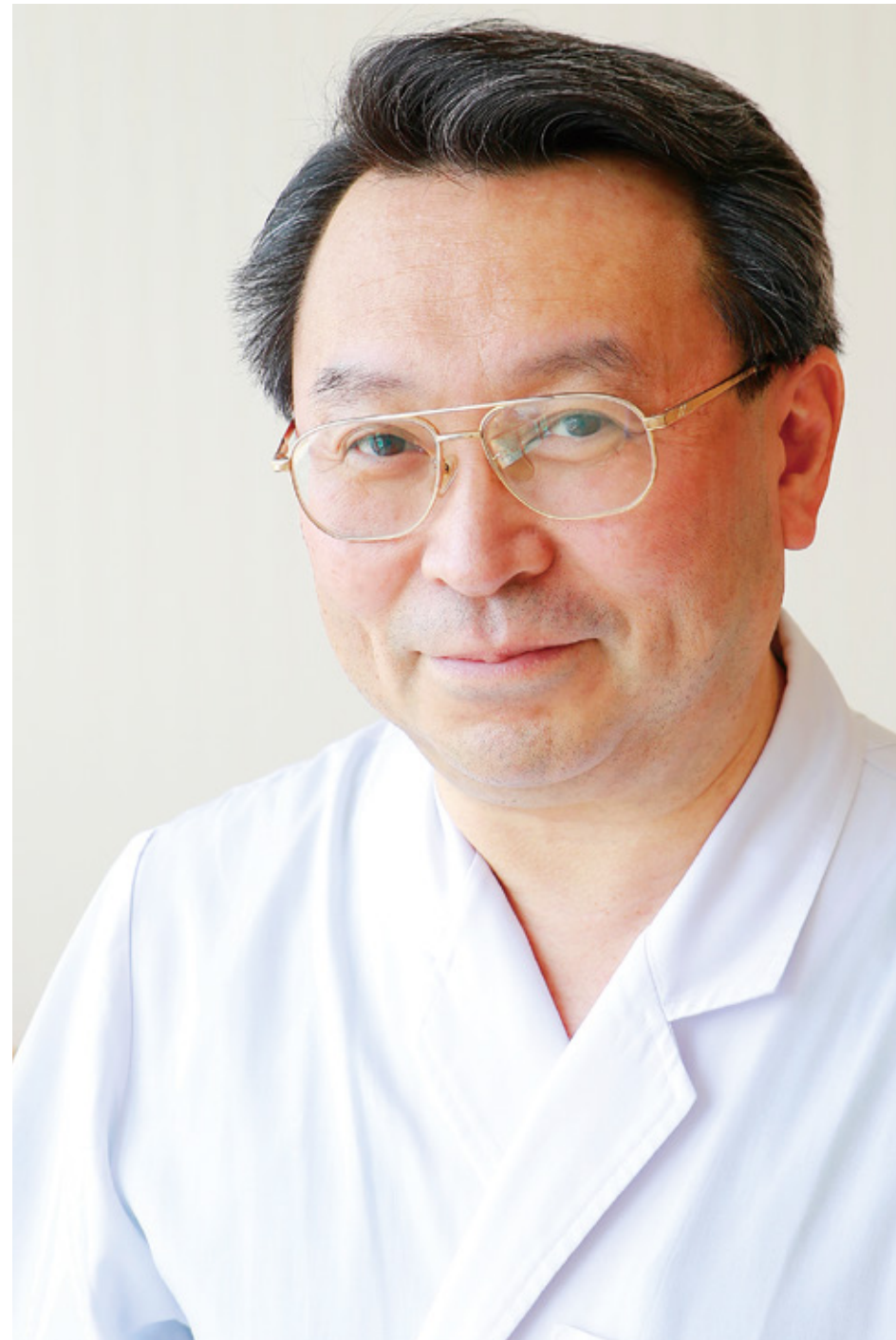
脳神経外科病棟に入院される疾患の中で最も多いのは脳梗塞と脳出血です。硬膜下血腫の手術も比較的多く実施しています。転んで頭を打ってしまった時に、受診しないでしたら徐々に様子がおかしい。会話が繋がらない。物忘れが多くなってきました。などの症状で受診し、CT検査をしてみたら血腫があったというケースがあります。

私事ですが、昨年12月に父親が犬の散歩の途中に転んで頭を切っていました。当院で傷を縫合してもらいました。その後心配になり脳外科を受診しCTの検査をお願いしたところ、水腫という状態になっていました。しばらく様子見て定期受診となり、その後自然吸収せず血腫に移行してしまいました。またその頃より物忘れ的な発言やふらつきがあったため、当院で穿頭ドレナージという手術をしてもらい、2週間で退院できました。自分の親を救うことができ、『自分が看護師で本当に良かった!』と思った瞬間でした。

脳神経外科病棟は、患者さまの観察がとても大切な病棟です。ただ見るだけでなく、昨日より体の動きが悪いとか、細かな体調の変化をしっかりと観察した上で検査を勧めるなど、鋭い観察力を持った看護師が揃っています。日常生活援助やリハビリテーションなど、患者さまに接する中で、優しく、笑顔を交し合えることを心がけています。患者さまから感謝のお言葉をいただくことが、私たちのパワーの源であり、喜びであると感じています。

## 診察と治療の さらなる充実を 目指して

行田総合病院  
脳神経外科 部長  
岡田 崇



当院の脳神経外科は、脳・脊髄・末梢神経・脊椎などに関する臓器の外科的治療を担当しています。代表的な疾患には、くも膜下出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳腫瘍、頭部外傷、急性および慢性硬膜下血腫などがあります。

平成28年の診療実績を前年と比較すると、全体の入院患者数の増加、手術件数の増加などが見られます。特に慢性硬膜下血腫の件数が非常に増加しています。これは高齢者の増加も一因であると考えられます。脳動脈瘤、クリッピング手術も増加しました。

年間400人を超える入院があり、その中でやはり脳梗塞が一番多い疾患でした。しかしながら、脳梗塞発症から3時間以内に受診している割合が低いという現状もあります。虚血性脳疾患は脳組織の可逆性が残っている早期に受診して診断、治療を開始することが後遺症軽減に重要です。『おかしいな?』と感じた時はすぐに受診してください。

急性期の脳梗塞の治療のために、県内の施設とのネットワークが整備されると、TPA治療などはさらに充実されると考えられます。TPA治療、手術治療ともに今後さらなる充実を目指します。

血管内治療（頸動脈の狭窄部位にステントを入れて狭窄を改善する治療。通称CAS）も新たに始めました。

脳疾患はADL（日常生活動作）が低下することが多く、その後のリハビリテーションも重要です。急性期治療中から開始できるリハビリテーションにも力を入れていきます。



## NEWS & TOPICS

2017.6-2017.7

### 行田地域循環器領域 Seminar ホテルガーデンパレス熊谷



2017年7月5日(水)

#### 行田市の人口動態を踏まえ、循環器疾患の未来を考える。

日本医師会生涯教育講座の単位認定を受けたセミナーがホテルガーデンパレス熊谷にて開催されました。行田市医師会長・根本先生が座長を務めた一般講演では、当院・川嶋理事長が『高齢者心房細動における抗凝固療法的重要性～症例を提示して～』と題した講演を行いました。山本クリニック院長・山本先生が座長を務めた特別講演では、自治医科大学付属さいたま医療センター長・百村先生による『心不全における抗凝固療法の最近の知見について』が講じられ、終了後の情報交換会へと続きました。

### ME課主催による勉強会 新西棟会議室



2017年6月29日(木)・30日(金)

#### 補助循環装置の基礎と安全使用。

ME 課主催による勉強会は、2日間に渡って開催。カテーテル室やリカバリ室で稼働している補助循環装置についての正しい取扱をレクチャーする内容で新人看護師を中心に多くのスタッフが参加しました。

### 放射線科主催の勉強会 新南棟会議室



2017年6月20日(火)

#### 安心安全な検査のために

『造影剤検査・MRI 検査の注意点～安心安全な検査のために～』と題した院内勉強会が放射線課の主催で開催され、外来・病棟・手術室・救急の各看護師をはじめ、多くのコメディカルスタッフが参加しました。

### 当院のスタッフがメディカルウェアのモデルに！ 全国配布 45,000 部の医療業界向けカタログ



2017年7月6日(木)

#### 病院外観、スタッフ着用による院内でのシーン、イメージなどを撮影。

メディカルウェアを扱うチトセ株式会社より依頼を受け、同社の業界向けカタログに当院のスタッフが着用モデルとして登場するという企画。この日、院内で撮影が行われました。当院へのユニフォーム導入のいきさつや導入後の感想などについてのインタビューを坂本管理局長が受け、南棟4階病棟の看護師と臨床工学技士がナースステーション・病棟・透析センターで働くシーンの撮影が行われました。カタログは今年の12月に発行される予定です。

## COLUMN

ドクターやナース、コメディカルの日常、大げさにいえば人生観まで。

好評につき、毎号連載中！

### We are REDS !! ～この夏新しい経験を！～

『そうこう』をご覧の皆様はじめまして。私は医事課の蛭間と申します。医事課という言葉はあまり聞き慣れない言葉であるかと思います。事務にも総務や経理といった色々な職種がありますが、医事課は読んで字のごとく医療事務を専門としているセクションです。

患者さまが来院され受付～会計までの対応を窓口でさせていただいております。私は主に入院の事務を担当しており、東棟1階で勤務しておりますので、受付やお会計等でご不明な点がございましたら、お気軽にお声掛けください。

さて、コラム執筆の依頼を受けまして何を書きましようか。これといった趣味や特技、披露できるような知識もありませんし....。

それでは、私の楽しみを書かせていただきます。

私は小学、中学、高校、社会人とずっとサッカーを続けておりました。自分でプレーすることが無くなってからもう10年以上が経過し、サッカーをしていたなんて想像もできないくらい体型もすっかり変わってしまいました(笑)。

今の楽しみはサッカー観戦。Jリーグ・浦和レッドダイヤモンズ(通称：浦和レッズ)の試合を観ることです。テレビ観戦はもちろん、ホームスタジアム、埼玉スタジアム2002で行われる試合には月に1回程度足を運びます。埼玉スタジアムは6万3,700人も収容できるワールドカップでも使用されたとても大きなサッカー専用スタジアムです。そんな大きなスタジアムに日本一と言われるサポーターが集まり、一体となって応援する様子はとても迫力があり、初めて観戦に行った際には感動が込み上げ寒気を覚えるほどでした。スタジアムには小さなお子さんからご高齢の方まで皆が単純にサッカーを楽しむためだけに来ている。

『サッカーのルールを知らない、楽しみ方がわからない、そんな自分が行ってもいいのかなぁ.....』そんな戸惑いは必要ありません！ぜひ一度スタジアムに足を運んでみてください！シュートが決まった時の高揚感と一体感は何事にも変えられませんし、テレビで観ている時とは全く違った臨場感と数万倍の感動があります。皆さんにもそれを感じていただきたいのです。もともと私はサッカー派で野球にはあまり興味がありませんでしたが、埼玉西武ライオンズの試合を球場で観戦する機会があり、やはりテレビでは感じる事のできない感動がありました。一步踏み出してみても新たな楽しみができたかと喜んでおります。

インターネットでなんでも見られたり・調べたりできる時代ですが、どんなことも実際に行ってみる、実際に見て感じるということが一番であることは、昔も今も変わらない事実であると思っています。

今年の夏も行田は暑そうです。思い切って一步踏み出して、新しい経験をしてみてはいかがでしょうか！



入院医事課係長  
蛭間 勉

入院手続き一式を行う入院医事課のサブリーダー。入院生活を始める患者さまやご家族の不安なお気持ちをサポートすることも大切な役割です。休日には荒川付近の釣り堀にのんびり針を落とす姿も。

## ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付けております。

### ●脳神経外科からのお知らせ

毎週火曜日の午前中に頭痛外来を行っています。

#### ●誰もが経験のある頭痛。

『頭痛くらいで...』と思わないで、一度「頭痛外来」を受診してみてください。



まずはあなたの頭痛が「他の病気が引き起こしている頭痛」なのか「多くの人を悩ませている慢性頭痛」なのかを問診・診察・検査を通して判断します。

#### ●「他の病気が引き起こしている頭痛」の場合

その原因となっている病気を治すことが治療の目的となります(例: 風邪、発熱などのほか、稀にくも膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、髄膜炎など、危険な病気も含まれます)。

#### ●「多くの人を悩ませている」の場合

治療目的はその頭痛自体をコントロールする事が重要となります(例: 偏頭痛、緊張型頭痛、群発性頭痛など)。

頭痛外来では、頭痛全般について診断を行い、病状によっては適切な診療科を紹介させていただきます。

[行田総合病院脳神経外科]

### ●心療内科からのお知らせ

毎週火曜日に心療内科外来を行っています。

●対象疾患／せん妄、うつ病、認知症（物忘れ）、統合失調症、パニック障害、強迫性障害、不眠症、社会不安障害、適応障害、摂食障害、身体表現性障害、てんかんに伴う精神症状、妄想や幻覚が疑われる状態。

●中毒性精神障害（アルコール性依存症も含む）、児童・思春期精神疾患、パーソナリティ障害、暴力行為や自傷行為などは、精神科専門病院を受診してください。●受診時にはご家族の付き添いをお願いいたします。

●受付時間 初診／午前 8:30～10:45 午後 14:30～16:15 再診／午前 8:30～11:15 午後 14:30～16:45

●診察室／新南棟 1F

●受診の前にお電話ください。●TEL.048-552-1111(病院外来医事課)。

[行田総合病院心療内科]

### ●新人看護師がんばってますっ！②

採血・針・検体の取り扱い研修に参加しました。

今回の新人看護師の集合研修では採血について学びました。学生の頃は模型相手でしたので、初めて人に針を刺すということでもとても緊張しましたが、今回は同期同士なので思い切りやれました。その中でも、決めたら迷わず刺す勇気や、確認すべきことをチェックして、安全に行う事の大切さを学びました。またスピッツ（真空採血管）によって用途、目的が違うので間違えず用意し、提出することにも注意が必要と分かりました。

▶今後の予定:次号では注射・点滴の1日研修についてレポートします。

[行田総合病院看護担当課]

